

自然生態園維持管理（2016 年度）

白木 江都子（自然遊学館わくわくクラブ）・岩崎 拓（貝塚市立自然遊学館）

貝塚市二色「市民の森」公園内にある「自然生態園」は、「トンボの池」「バッタの原っぱ」「ドングリの森」「海辺の植物ブロック」の 4 つのエリアからなり、大阪湾の埋立地にあるビオトープとして、もうじき 20 年になろうとしています。

トンボの池を埋め尽くすほどのアメリカザリガニに悩まされたこともあり、金魚が泳いでいたこともあれば、グッピー、カワバタモロコ、メダカ、トノサマガエル、ミシシippアカミガメなど、千客万来である。毎月第 2 土曜日の午前中に、自然遊学館わくわくクラブ員が集まり、招かざる客を取り除いたり、次々繁茂する帰化植物を抜き取ったり、茂りすぎた木々を剪定したりしている（図 1）。



図 1. トンボの池周りの剪定作業

自然遊学館わくわくクラブは、自然遊学館と協力して、トンボの池の生きもの調査と、4 つの区画の草刈りや草抜き、清掃などの維持管理活動を行っているが、2014 年度に実施した長期間の池さらえにより、今年度もアメリカザリガニとメダカの姿を見ることがなくなった。トンボの池の水の増減は、地下タンクに溜めた雨水の注水時期を考えて行っている。

海辺の植物ブロックでは、相変わらず帰化植物の侵入が激しく、ハマボウフウ・ハマゴウ・ハマエンドウ・ハマヒルガオ・コウボウシバ・コウボウムギを守るために、帰化植物だけではなく、増えすぎる在来種のノイバラ・カラスノエンドウ・ヒメムカシヨモギ・ヘクソカズラなどの抜き取りにも手をかけて、かろうじて海辺の植生を維持している。

<作業日誌>

2016 年 4 月 9 日、天候：晴れ 参加者：10 人

トンボの池では、ミズダニ科のツチダニ属が見つかり、まだメダカもアメリカザリガニは未発見。池の南東側にヤマモモが 5 本あり、そのうちの 2 本が大きく育って、池の日蔭が大きくなり、生きもの環境に問題がありそうなので、山口進会長に伐採していただいた。トンボの池中のヨシで、クロスジギンヤンマが羽化していた（図 2）。各ブロックの草刈りも、山口会長夫妻のプロの技により非常に捗った。



図 2. クロスジギンヤンマの羽化

13 : 30 から自然遊学館で、2016 年度自然遊学館わくわくクラブ総会を開催した。出席者は 10 人。

<トンボの池の生きもの調査>

採集者：森本静子、岩崎拓

仕分け：岡田尚子、白木茂、南隆雄

(採集者と仕分け者等の敬称は省略、以下同様)

水生昆虫(幼虫)：クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、シオカラトンボ属、アカネ属、ユスリカ科、ホソカ科

水生昆虫(成虫)：ケシカタビロアメンボ、コマツモムシ、マルミズムシ、チビゲンゴロウ

水生動物：ツチダニ属、ハブタエモノアラガイ、サカマキガイ、エラミミズ、イトミミズ類、イシビル科

備考 森本静子氏がツチダニ属の一種(ミズダニ類)を8個体採集・撮影。ツチダニ属の初記録は今年の4月、ミズダニ類全体としては今回は3例目となった。

水中：シャジクモ少し(1年を通して生えている)、アオミドロ少し

トンボ(羽化殻)：クロスジギンヤンマ

2016年5月14日 天候：晴れ 参加者：7人

クラブ員の北川敏喜氏が、新しい自然生態園標柱を彫り始めた。古い自然生態園標柱は地上の長さが2m67cm、土中に埋まっていた部分が53cm弱だった。第2タンクの上の草を機械刈りし、トンボの池周辺は鎌で草刈り。海辺の植物ブロックは、ハマヒルガオが満開(図3)、ハマボウフウも花を咲かせていた。帰化植物のヒメコバンソウ・ツキミマンテマも花盛りだ。



図3. ハマヒルガオ

<トンボの池の生きもの調査>

採集者・仕分け：森本静子、岩崎拓

水生昆虫(幼虫)：アオイイトトンボ属、クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、シオカラトンボ属、アカネ属、ユスリカ科、ホソカ科、ヤチバエ科

水生昆虫(成虫)：ヒメアメンボ(幼虫も)、ケシカタビロアメンボ(幼虫も)、コマツモムシ(幼虫も)、マルミズムシ、チビゲンゴロウ、セスジゲンゴロウ属

水生動物：ハブタエモノアラガイ、サカマキガイ、イトミミズ類、トノサマガエル幼生

備考 仕分け作業中、トノサマガエルが2個体鳴く

水中：シャジクモ少し、アオミドロ少し

水辺：カサスゲ(開花)、イグサ(開花)・・・植物同定：湯浅幸子氏

トンボ(成虫)：アオモンイトトンボ、シオカラトンボ

トンボ(羽化殻)：シオカラトンボ属

2016年6月11日 天候：くもり 参加者：7人

前回に引き続き自然生態園標柱作りの作業。標柱に彫った文字にプリンターのインクを墨入れし（図4）、頂部を電動鉋で丸く加工した。標柱を立て込む穴を直径70cm、深さ80cmに掘削したが、旧標柱と同じ位置のため、既存のコンクリートを除くのに手間取った。公園を訪れる人に危険の無いようブルーシートで上部を覆い、また雨水が入らないように工夫した。

母親と子ども二人の2グループがバッタ採りに訪れたが、「どうぞ」と言うべきか、リリースをお願いするか、あるいは禁止か、自然環境学習的な観点と公園の生きものを増やしたいという思いからは、リリースをお願いするのが正解だろう。



図4. 標柱への墨入れ
(作業：北川敏喜)

<トンボの池の生きもの調査>

採集者・仕分け：森本静子、岩崎拓

水生昆虫（幼虫）：ギンヤンマ、マルタンヤンマ、シオカラトンボ属、アカネ属、ユスリカ科、ホソカ科

水生昆虫（成虫）：ヒメアメンボ、ケシカタビロアメンボ（幼虫も）、コマツモムシ、マルミズムシ（幼虫も）、スジヒラタガムシ

水生動物：ハブタエモノアラガイ、サカマキガイ、エラミミズ、イトミミズ類、イシビル科、トノサマガエル幼生

備考 マルタンヤンマ幼虫は、2013年4月以来の確認（図5）スジヒラタガムシの中に、腹部に卵塊を付けたメス成虫あり、2012年8月以来の確認

水中：シャジクモ、アオミドロ

トンボ（成虫）：シオカラトンボ、オオシオカラトンボ

トンボ（羽化殻）：ギンヤンマ、シオカラトンボ属



図5. マルタンヤンマ幼虫

2016年8月6日 天候：晴れ 参加者：13人

トンボの小池にコナギが繁茂し、イヌホタルイが生え、ウキクサも浮いていたが、埋立地に田んぼの水が流入する可能性があるのだろうか。

9：00～11：00、新自然生態園標柱の建て込み（図6）。バッタの原っぱに生えているアベマキにロープを掛け、北川敏喜氏の指導の下、標柱を穴の中に立たせ、固定作業にかかる。セメントと砂を混ぜて練り、標柱の地中に埋める部分には、防虫シートを巻く。穴に合わせてベニヤ板を固定し、セメン



図6. 標柱を立てる

トと砂利を流し込む。3 日後にはベニヤ板を外せるらしい。バツタの原っぱを鎌と刈り払い機で草刈りをし、アベマキとヤマコウバシを剪定した。

<トンボの池の生きもの調査>

採集者・仕分け：森本静子、岩崎拓

水生昆虫（幼虫）：アオモンイトトンボ属、ギンヤンマ属、シオカラトンボ属、ユスリカ科

水生昆虫（成虫）：ケシカタビロアメンボ、コマツモムシ、マルミズムシ（幼虫も）、スジヒラ
タガムシ

水生動物：イトミミズ類、イシビル科、トノサマガエル

備考 水中：シャジクモ、アオミドロ少し、ウキクサ少し

水辺：コナギ（8月3日にトンボの池で初記録、図7）、

イヌホタルイ（開花）、ミソハギ（開花）・・・植

物同定：湯浅幸子氏

トンボ（成虫）：アオモンイトトンボ、シオカラトンボ

トンボ（羽化殻）：シオカラトンボ属



図7. コナギ

2016年9月10日 天候：晴れ 参加者：10人

小池からトンボの池に流入した部分に土がたまり、先月辺りから、チョウジタデ・タマガヤツリ・アゼガヤツリ・タケトアゼナが生えていた。タケトアゼナとチョウジタデは初見。

11:00~12:00、バツタの原っぱでバツタ調べ実施（図8）。

講師にお迎えした森康貴先生から説明を受けた後、大人も子どもも網または素手で、20分間採集を行った。採集したバツタ類は、1匹ずつ透明ケースに入れて置き、20分後に森先生が、幼虫か成虫か、雌雄の別、種名を告げられ、その種の特徴や、幼虫、成虫の区別の仕方や、雌雄の見分け方などを解説された。



図8. バツタ調べ

<バツタの原っぱ生きもの調査>

ホシササキリ幼虫・成虫、クビキリギス幼虫、エンマコオロギ成虫、ハラオカメコオロギ成虫、シバスズ幼虫、マダラスズ幼虫、オンブバツタ成虫、ショウリョウバツタ成虫、マダラバツタ幼虫・成虫（同定：森康貴氏）

<トンボの池の生きもの調査>

採集者：森本静子、澤田智子

仕分け：白木茂、湯浅幸子、森康貴、岩崎拓

水生昆虫（幼虫）：アオモンイトトンボ属、ギンヤンマ属、シオカラトンボ属、ウスバキトンボ、

ユスリカ科

水生昆虫（成虫）：ケシカタビロアメンボ、コマツモムシ、マルミズムシ（幼虫も）

水生動物：サカマキガイ、イトミミズ類、イシビル科

備考 水中：シャジクモ、アオミドロ

水辺：コナギ（大池側でも増える）、タマガヤツリ（開花）、アゼガヤツリ（開花）、ミソハギ（開花）、セリ、チョウジタデ、タケトアゼナ（開花、同定：梅原徹氏、トンボの池で初記録、図9）

トンボ（成虫）：シオカラトンボ

トンボ（羽化殻）：ギンヤンマ属、シオカラトンボ属



図9. タケトアゼナ

2016年10月8日 天候：晴れ 参加者：6人

トンボの池周りのヤマモモを伐採し、伐採した枝葉を整理した。トンボの池周辺の草刈りでは、特にメリケンカルカヤを根から抜きとり、ススキは株を小さくし、枯れた花を刈り取った。

<トンボの池の生きもの調査>

採集者・仕分け：森本静子、岩崎拓

水生昆虫（幼虫）：クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ属、マルタンヤンマ、シオカラトンボ属、ユスリカ科

水生昆虫（成虫）：ケシカタビロアメンボ、コマツモムシ、マルミズムシ、チビゲンゴロウ

水生動物：サカマキガイ、イトミミズ類、イシビル科

備考 水中 シャジクモ、アオミドロ、ウキクサ

水辺：コナギ（開花）、タマガヤツリ（花穂）、アゼガヤツリ（花穂）、ボントクタデ（開花）、コガマ（花穂）、タケトアゼナ（蕾）、ヨシ（花穂）

トンボ（成虫）：マイコアカネ（図10）、リスアカネ（産卵）



図10. マイコアカネ

2016年11月12日 天候：晴れ 参加者：7人

先月に続きヤマモモを伐採して、太枝・細枝・葉に分別した。自然遊学館顧問の保田淑郎先生（自然遊学館わくわくクラブ顧問）は、体調を崩され休職中だが、久々に活動を見学に来られ、新自然生態園標柱前で記念撮影をした。

<トンボの池の生きもの調査>

採集者・仕分け：澤田智子、岩崎拓

水生昆虫（幼虫）：アオモンイトトンボ属、クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、マルタンヤンマ、シオカラトンボ属、ユスリカ科

水生昆虫（成虫）：マルミズムシ、チビゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ

水生動物：ハブタエモノアラガイ、サカマキガイ、イトミミズ類

備考：ウスバキトンボ幼虫は、2012年9月以来の確認

水中：シャジクモ、アオミドロ

2016年12月10日 天候：晴れ 参加者：8人

自然生態園全体の草刈り。海辺の植物ブロックでは、全体を覆いつくす勢いのコマツヨイグサを手分けして抜きとり、大ゴミ袋3杯分になった（図11）。



図11. 草刈り作業

<トンボの池の生きもの調査>

採集者・仕分け：森本静子、岩崎拓

水生昆虫（幼虫）：アオモンイトトンボ属、クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、マルタンヤンマ、シオカラトンボ属、ユスリカ科

水生昆虫（成虫）：コマツモムシ、マルミズムシ、チビゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ

水生動物：ハブタエモノアラガイ、サカマキガイ、イトミミズ類

備考 水中：シャジクモ

2017年2月11日 天候：くもり／晴れ 参加者7人

自然生態園用倉庫の不用品片付けと、清掃を実施した。ここ2、3日は厳しい寒さで前日には積雪があった。

<トンボの池の生きもの調査>

採集者：森本静子、岩崎拓

水生昆虫（幼虫）：クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、マルタンヤンマ、シオカラトンボ属、ユスリカ科

水生昆虫（成虫）：コマツモムシ、ハイイロゲンゴロウ

水生動物：ハブタエモノアラガイ、サカマキガイ、イトミミズ類

備考 水中：シャジクモ

2017年3月11日 天候：晴れ 参加者：8人

倉庫床下のノネコ侵入防止木材が腐蝕してきたので、新しいものと入れ替え、同時に周辺を整理、整頓した。トンボの池第2タンクの貯留雨水を、既設注水ポンプを使って第1タンクに移し

た。トンボの池面に、ある程度日照を入れるためにアカメガシワを伐採し、株立ちヤマモモ（根元径 15～20 cm×2 本）を伐採した（図 12）。園路沿い波柵部分の草を、鎌で刈った。海辺の植物ブロックでは、スイカズラなどを除草した。



図 12. ヤマモモの剪定

<トンボの池の生きもの調査>

採集者：森本静子、岩崎拓

仕分け：阿部百花

水生昆虫（幼虫）：アオモンイトトンボ属、クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、マルタンヤンマ、シオカラトンボ属、ユスリカ科（蛹も）、ホソカ科

水生昆虫（成虫）：コマツモムシ、マルミズムシ、ハイイロゲンゴロウ

水生動物：ハブタエモノアラガイ、サカマキガイ、イトミミズ類、イシビル科

備考 水中：シャジクモ